

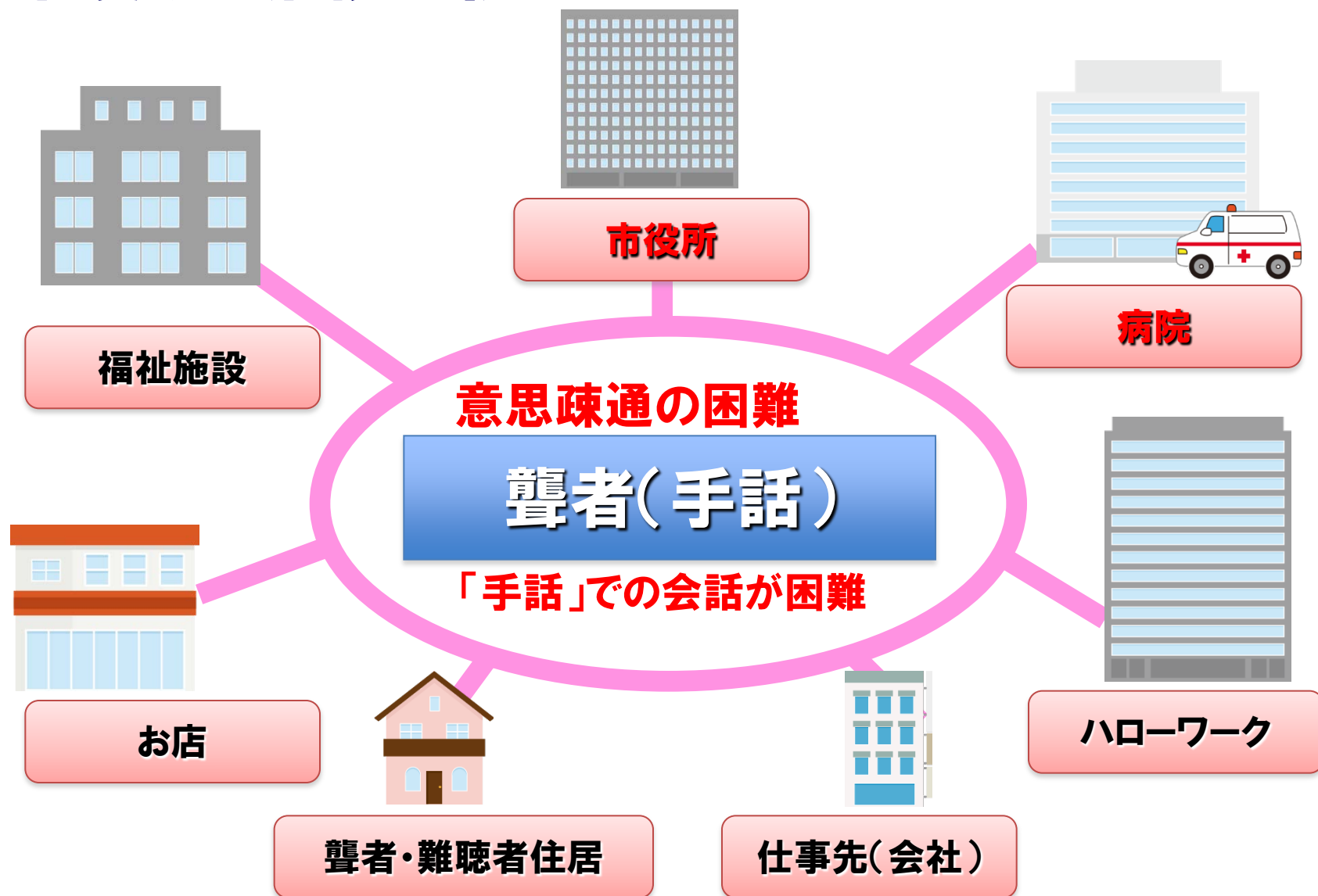
複数情報伝達モードを備えた ユニバーサルな電話リレーサービスの提供

第41回国際福祉機器展 H26.10.2

(株)SOBAプロジェクト 乾和志

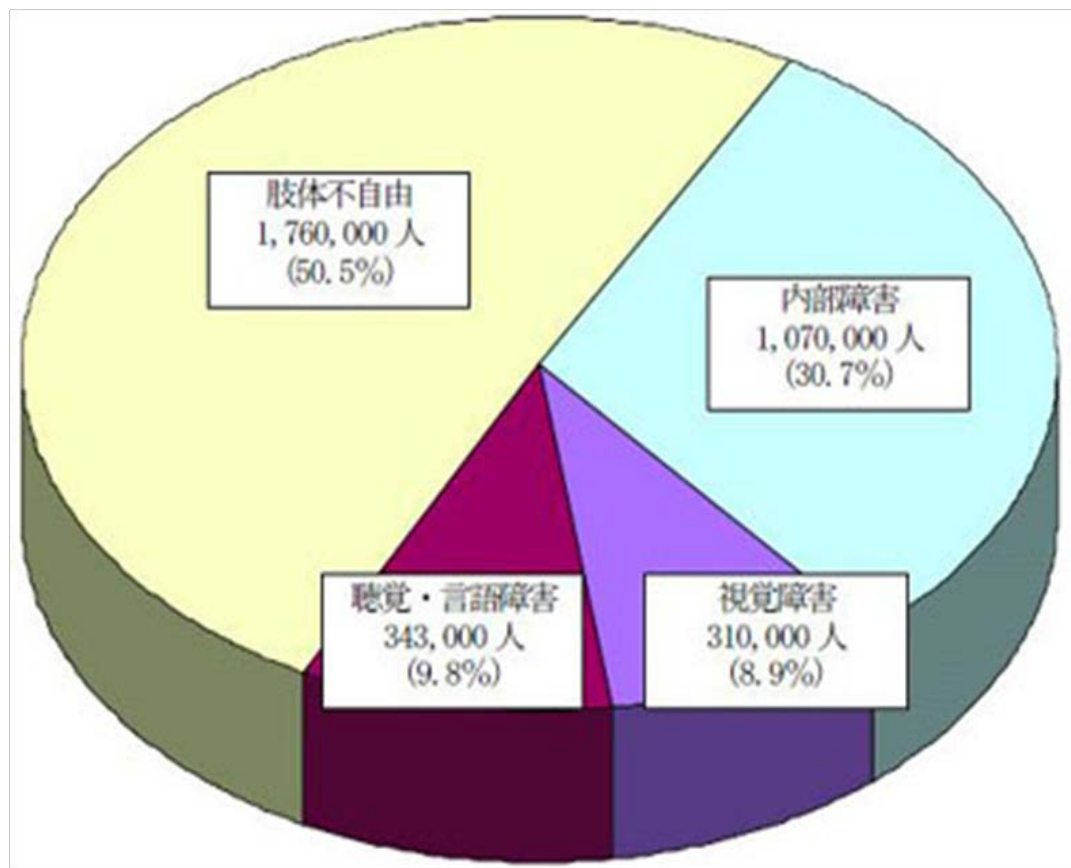
(有)NMC 安田喜一

はじめに 聾者の意思疎通の不便さ 市役所と病院の例

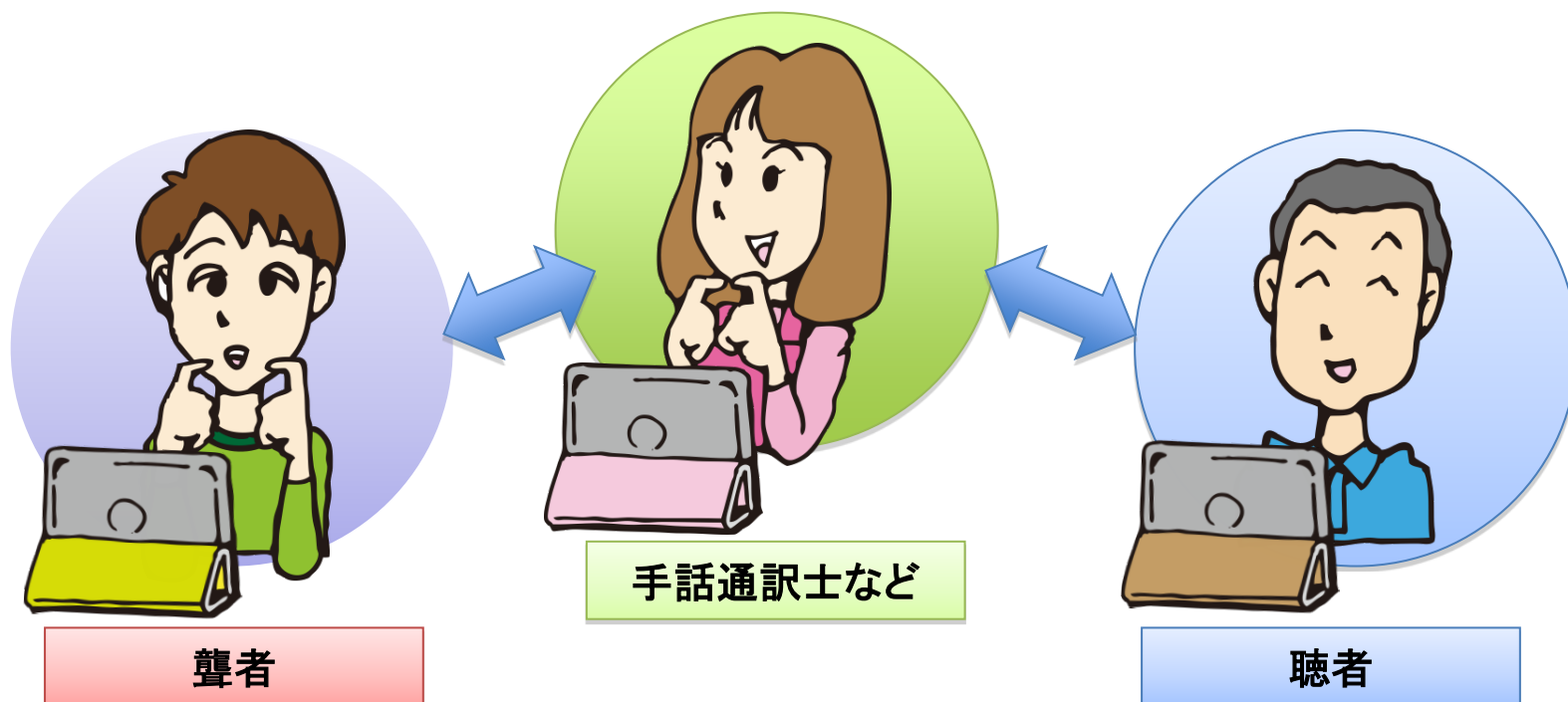


障害の種類別に見た身体障害者数

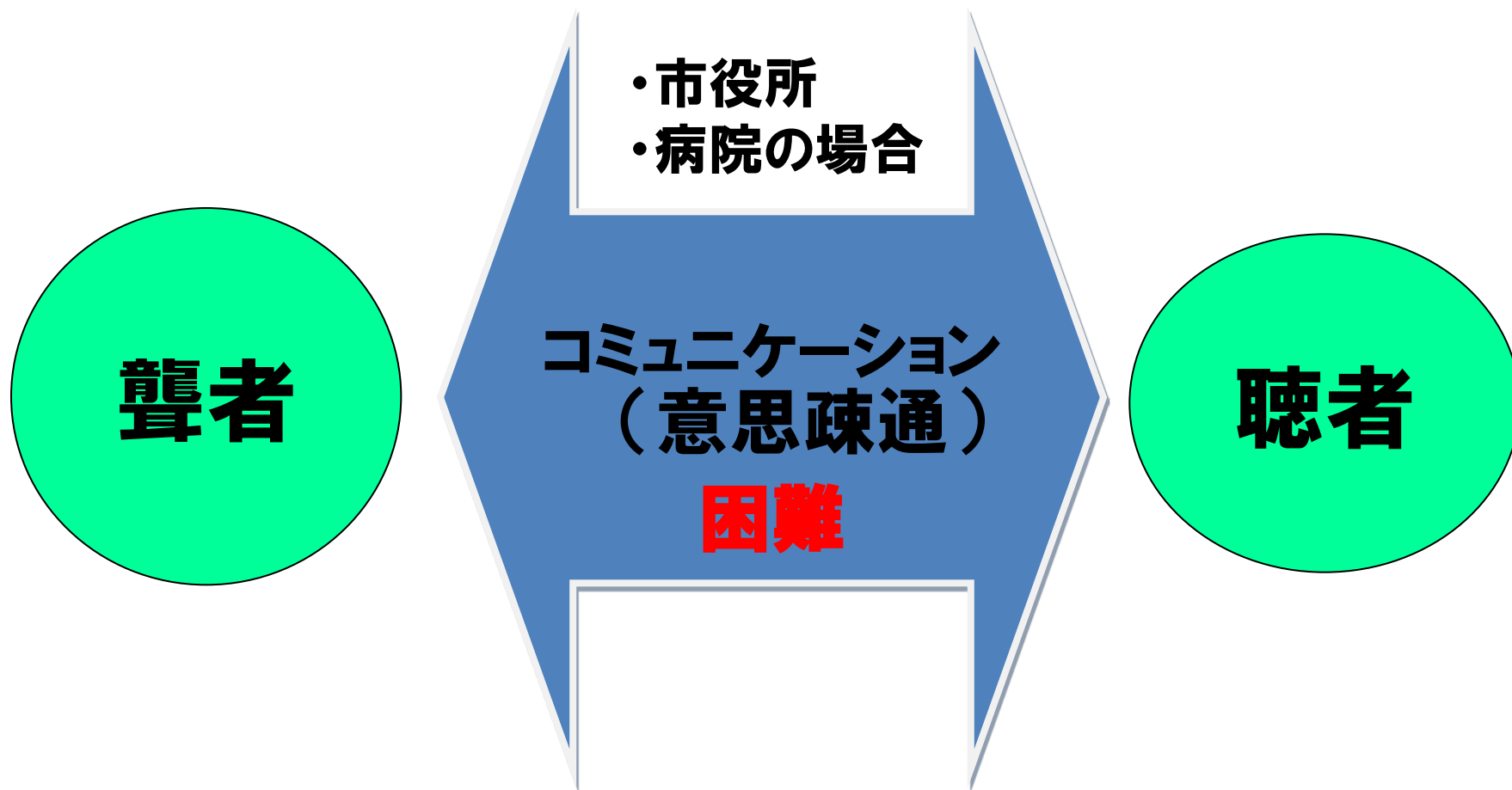
(総数:3,483,000 人) (出典)厚生労働省:平成18年身体障害児・者実態調査



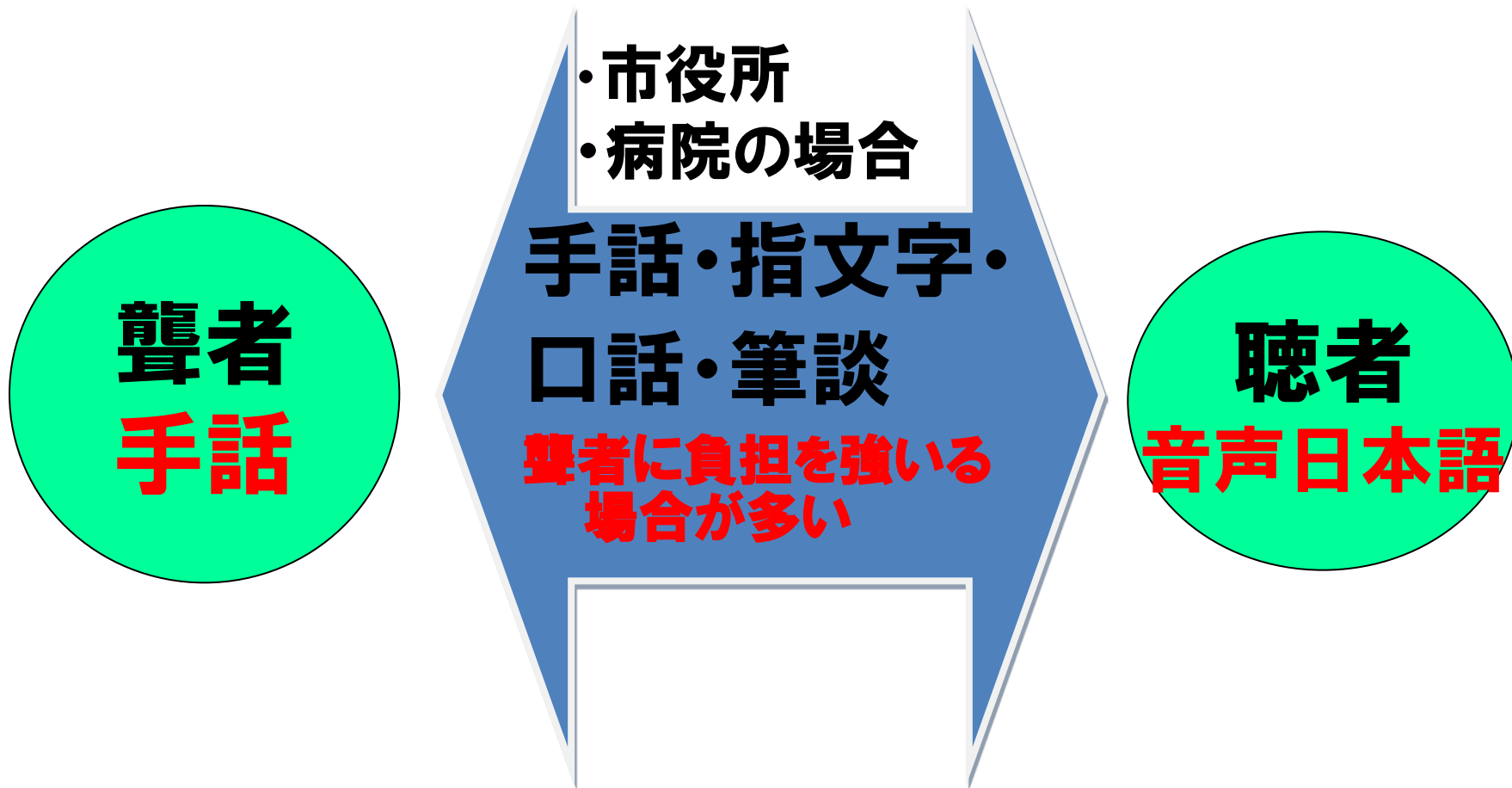
電話リレーサービスのイメージ



目的 困難さを軽減



問題意識



一般的な聾者と聴者

聾者

- 手話で会話する事が多い
- 筆談は苦手な人もいる

聴者

- 手話での会話困難
- 手話を学習したり利用する機会
少ない

電話リレーサービス端末画面イメージ

利用者 A さんの画面 (タブレット PC)



利用者 A さん

手話通訳者の画面 (PC)



手話通訳者

市役所担当者の画面 (PC)

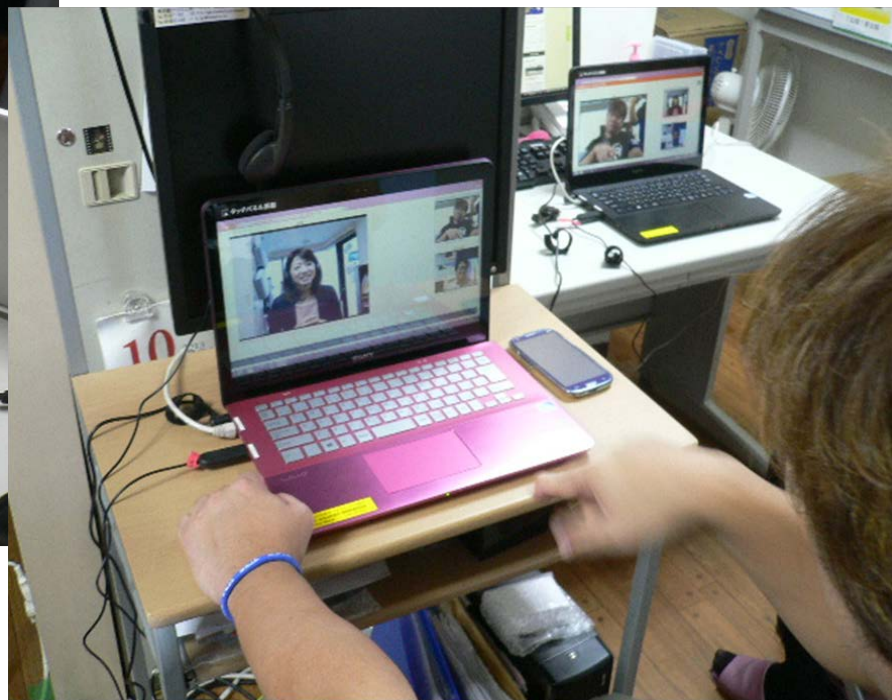
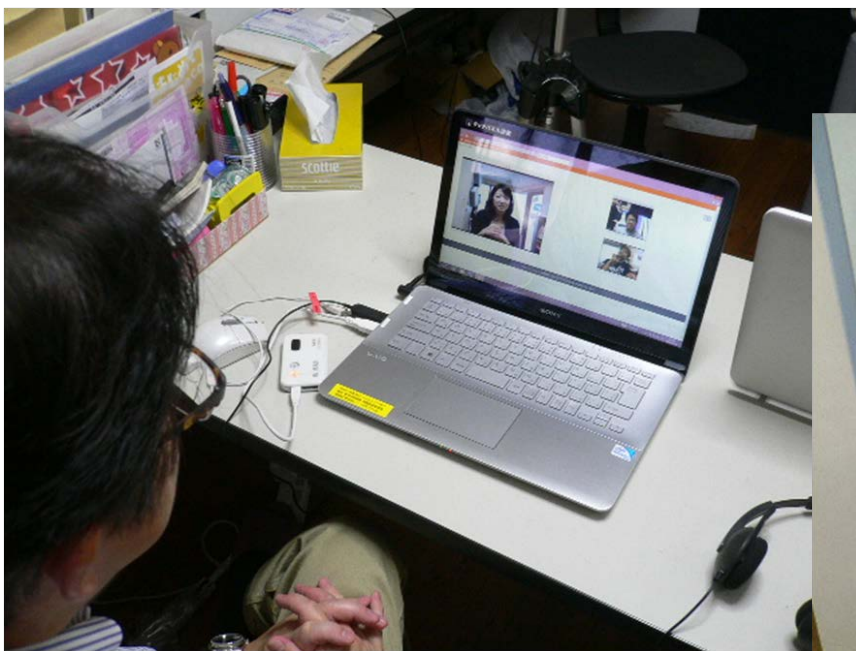


市役所担当者

実証実験で採用した方法のイメージ図



昨年の実証実験時の様子



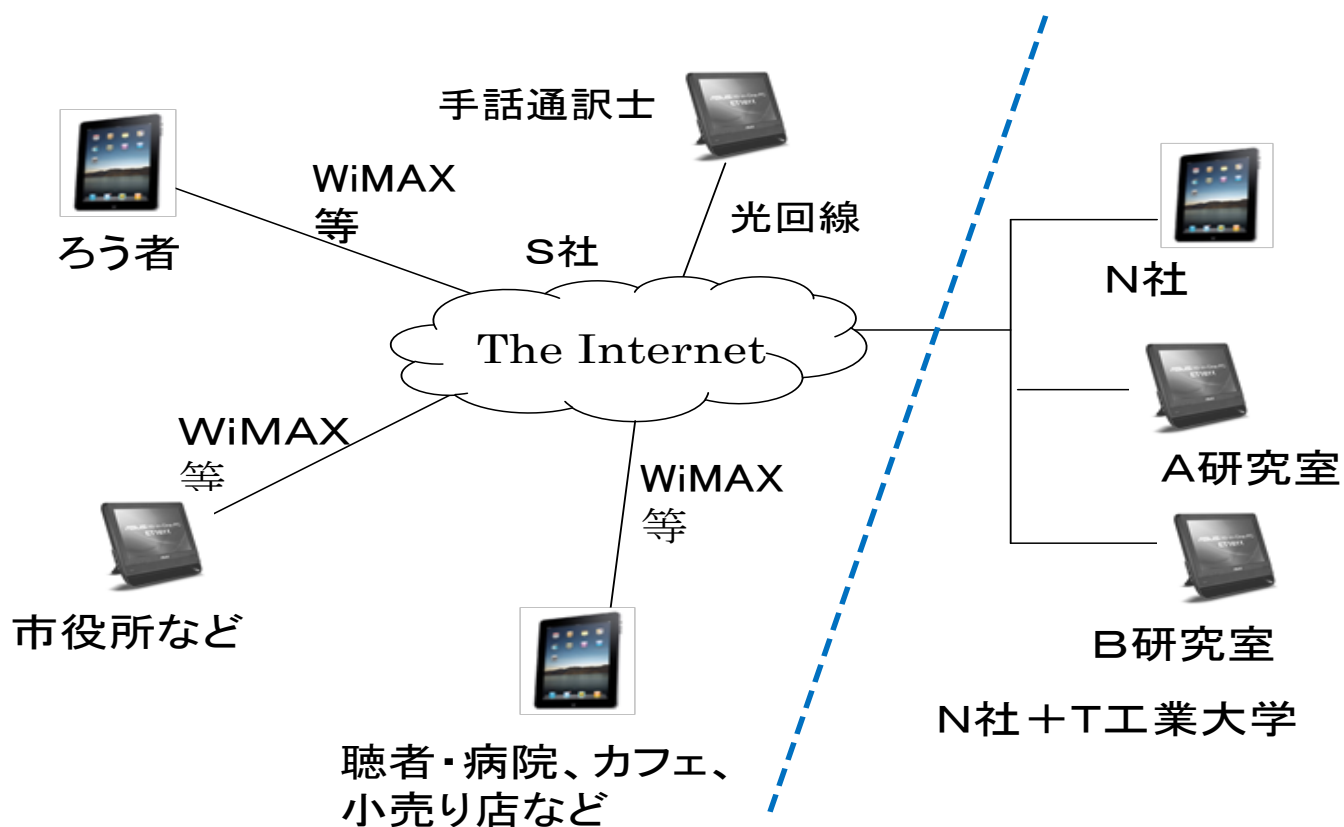
各拠点と使用端末及び回線例

拠点	PC	回線	タブレット	回線
聾者A	○	光回線	-	-
聾者B	○	光回線	-	-
手話センター	○	光回線	○	WiMAX
T市役所	○	WiMAX	○	WiMAX
N病院	○	WiMAX	○	WiMAX
メッセ会場	○	光 & WiMAX	○	WiMAX
京都S社	○	光 & WiMAX	○	WiMAX
名古屋N社	○	光 & WiMAX	○	WiMAX
T工大A	○	光回線	-	-
T工大B	○	光回線	-	-

仕様

- インターネット環境で使用OK
- ウェブブラウザ: Internet Explorer、Firefox、chrom、Safariなど
- PCにソフトウェアをインストール不要
- 対応OS: iOS、Androidのスマートフォン・タブレット、Macなど
- 複数以上との双方向通信で、リアルタイムにコミュニケーションが可能

プレ実証実験実施状況(平成25年11月)



主な意見例

	ろう者 人数	聴者 人数	代表的な評価とITスキルなど(聾者と聴者の両者の評価がある場合、 上段が聾者、下段が聴者)
聾者A	1	-	(評価高)IT・スマホ関係強い。当時、聾者ネットニュース会社勤務。 画像関連サイズの使いにくさを指摘。
聾者B	1	-	(評価高)IT関連強い。5者対話・多人数複数対話に関心大。スマホ 関係強い。携帯ショップ勤務。
手話センター	0	3	(音声評価高)手話通訳士3名。有資格者
T市役所	2	6	(評価中)ろう者の夫婦◎関心を示した (評価高)手話通訳者。聾者・聴覚障害者・知的障害者の来庁者
N病院	0	6	(遅延不満)来院した高齢者
メッセ会場	0	3	(遅延大)会場のネット環境。IT関連強い聴者
京都S社	0	3	(光回線時評価大)IT関連強い聴者
名古屋N社	1	2	(光回線時評価大)携帯好きな聾者 (光回線時評価大)IT関連強い聴者
T工大A	0	1	(遅延が不満あり)IT関連強い聴者
T工大B	0	1	(5者対話遅延不満)IT関連強い聴者
合計	5	25	(除くT市役所、N病院聴者職員)

問題点

- 試作品は任意の時間で電話リレーを開始する事ができず、時間を決めて開始しなければならない
- 通話者の画像サイズ(3面もしくは5面)を任意に変更できない
- 画像と画像の間隔が広く、目が疲労する

良かった点

- パソコンやタブレット端末で使用可能であり、専用機器を購入不要
- 対話する相手の画像が確認でき、相互に感情が伝わりやすい
- 現場に手話通訳者が常駐する必要がなく、不在でもスムーズに意思疎通ができる

結論

- 聾者と聴者の評価として、
遠隔でも**画像、音質**が、リアルと
同等の効果が得られる
と高評価であった

ご清聴ありがとうございました